



## リレーエッセイについて思うところ

明治大学の安保充先生からバトンを受けました。産業技術総合研究所の藤井です。安保先生は、大学院博士課程時代の指導教官のお一人で、課程の3年間とポストク時代の1年間を同じ部屋で過ごさせていただきました。かれこれ20年ほど前のことになるので、時の流れの早さに驚嘆するばかりです。私は5年前に「ぶんせき」誌の編集委員となり、4年間、本誌の編集に携わることができました。編集委員も安保先生から受け継ぎましたが、編集委員会での最初の仕事はこのリレーエッセイでした。委員の間はリレーエッセイのバトンが回ってくることはまず無いと思っていたのですが、「編集委員が終わってしまえば一読者、ではなく、執筆候補者になるのだよ」と先輩委員から言われた言葉が思い出されます。

例えば、様々な人の縁でここまでやってこられたので、これまでの私の研究におけるリレーを振り返ってみたいと思います。私は広島県北部の三次（みよし）出身で、学部時代は岡山理科大学理学部生物化学科で過ごしました。配属された応用微生物学研究室では、田中三男先生のご指導の下、微生物由来酵素を利用したオリゴ糖生産バイオリクターを開発することになり、日々、リアクターから生成される糖の比色分析や液クロを用いた分離分析をしていました。研究室に入るまでは高校の教員を志望していましたが、田中先生からの紹介を受け、修士課程は徳島大学大学院工学研究科に進学しました。徳島大学では伊永隆史先生のご指導の下、海藻を原料としたバイオリクターの開発や海藻養殖業でのゼロエミッションシステムの構築などに関わりました。また、当時伊永先生が進めておられた大気環境測定用マイクロチップデバイス開発にも関わり、これらの研究がきっかけで東京大学大学院農学生命科学研究科に進学しました。ここで安保先生と出会ったわけですが、所属した農学部分析化学研究室では山崎素直先生から大久保明先生に代わるところで、こちらでのマイクロチップデバイス開発に着手しました。後に、現群馬大学の佐藤記一先生も研究室に戻ってこられ、環境分析や細胞アッセイマイクロデバイスを開発を行いました。学位取得後、学振のポストクとして同研究室に所属していた時、山崎先生と大久保先生から研究室の先輩である岡本研作さんが所属されていた産総研をご紹介いただきました。当時は、計量標準分野にバイオメディカルに関する研究室が設置されたところでした。産総研入所時は、当時の生物機能工学研究部門に所属し、矢吹聡一さんのバイオメジャー研究グループに配属されました。2年後には計測標準研究部門（現物質計測標準研究部門）に異動し、現職（バイオメディカル標準研究グループ）へと続くこととなります。産総研では、「技術を社会へ」をスローガンに核酸標準物質というバトンを持って、社会への技術の橋渡しを進めています。

進路を決めるに当たっても、その先々では全く知り合いもおらず、土地勘すら無い状況でしたので、現在の環境は広島で生活していた頃には夢にも思いませんでした。ただ、こうして振り返ってみると、不思議な縁を感じています。高校や学部時代には、自分が置かれた環境



写真 献血カード

の先にある、人の繋がりはほとんど見えていなかったように思いますが、様々な経験とともに、有機的なネットワークが次第に見えてきました。特に所属する大学が変わってからは、数年後に、以前所属していた大学の同窓生と学会で会ったり、一緒に研究するようになったりと、さらにネットワークの次元が増えたような感じがします。

いうまでもなく、こうしたネットワークは読者の皆さんひとりひとりにあるものです。いろんな人の繋がりでこの学会はできていて、こうした有機的な繋がりを求めることも、学会の発足や継続の動機の一つになっていると思います。このリレーエッセイのバトンがこれからも脈々と受け継がれ、学会内外で大きなネットワークが形成されると良いなと思います。従って、この企画を今後も続けてもらいたいと思いますし、これからどんな繋がりが出てくるのか、とても楽しみにしています。また、このリレーエッセイを読むことができる裏では、本誌の編集委員会があって毎号の企画、編集作業が続けられています。この編集委員会での出会いもまた、更なる繋がりを生み出します。産学官交流の良い機会でもあるので、委員を打診されたらぜひ受けていただければと思います。

写真はここ20年ほどの趣味となっている献血のカードです。これは「いのちのリレー」とも言えるでしょうか。血液成分「分析」結果というおまけもついでくるので、体調管理にも役立ちます。

このリレーを次は国立環境研究所の伏見暁洋さんに繋がりたいと思います。伏見さんとも不思議な縁で、本誌編集委員の引継いでご一緒しましたが、実は徳島大学時代の後輩である家内が進学した先の研究室の先輩に当たります（ややこしい）。伏見さんもつくばで暮らしておられますが、なんと、同じマンションにお住まいで、現在は私が子ども会の会長、伏見さんが副会長を務めています。そんな公私でお付き合いのある伏見さんからの楽しいエッセイを期待しています。よろしくお願ひします。

〔産業技術総合研究所 計量標準総合センター〕  
藤井紳一郎